

外来植物「ナガミヒナゲシ(ケシ科)」の 群生が確認されました。

昨年5月に松波地内において、外来植物「ナガミヒナゲシ」の群生が確認されました。オオキンケイギクやセイタカアワダチソウ、ブタナとともに繁殖が大変心配される植物ですので、注意が必要です。

今年もすでに松波、山本、半田地域において「ナガミヒナゲシ」が確認されています。つきましては、昨年同様、外来植物の駆除に御協力をお願いいたします。

ナガミヒナゲシの生態

- 原産地 地中海原産でヨーロッパ、北アフリカ、西アジア、オセアニア、南北アメリカ日本に分布
- 特 徴
 - ・花色は肉色と言われるオレンジ色。花弁は基本4枚。開花時期は4～5月。茎には硬い毛が生えていて、高さ15cm～60cmくらいになる。
 - ・果実は細長く、和名の「長実籬芥子=ナガミヒナゲシ」は、ここから付けられた。果実の中には、芥子粒大の種が約1600粒も入っていて、1個体が約100個の果実をつけるので、多い個体は15～17万粒の種を持つ。種は秋に発芽し、ロゼット状態で越冬するものと翌春に発芽するものがある。
 - ・セイタカアワダチソウ、オオキンケイギク同様、根と葉から周辺の植物の生育を強く阻害する物質を出し(アレロパシー)、在来植物などに影響を及ぼす危険があります。

本種の駆除方法

- ・自宅庭において株が少なければ、根から引抜いてもらい、燃やすごみとしてお出してください。
- ・株が多くて引抜けない場合は、地上近くから刈取ってください。



ナガミヒナゲシの花



果実(長さ約2.5cm)



果実内の種子



群生の様子

《 担 当 》

市民生活部環境課環境政策係

電話：23-5170 FAX：24-4196

Eメール：kankyo@city.kashiwazaki.lg.jp